

7 今後の財政見通し

本区は、平成29年3月に29年度から31年度までを計画期間とする第3期の基本構想実施計画を策定しました。その中で、今後10年間の財政見通しを示しています。将来にわたり安定的な行政サービスを提供するには、今後の行政需要を的確に把握し、その変化にも対応し得る財政基盤を築くことがとても重要であるため、今後も財政状況を注視してまいります。

■ 歳入歳出予算の推計と実績

対象：一般会計当初予算を対象とします。

期間：29年度から38年度までの10年間とします。ただし、29年度は、実際の当初予算額です。

(単位：百万円)

区分		年度										
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	
歳入	一般財源	特別区税	32,040	32,466 (32,659)	32,949	33,413	33,778	34,119	34,463	34,750	35,100	35,421
		(うち特別区民税)	30,845	31,271 (31,798)	31,754	32,218	32,583	32,924	33,268	33,555	33,905	34,226
		地方消費税交付金	5,300	5,430 (5,000)	5,520	7,080	7,160	7,240	7,320	7,400	7,480	7,560
		特別区交付金	16,400	17,030 (17,100)	17,750	18,420	17,790	17,640	17,390	17,160	17,130	17,340
		その他	1,260	1,277 (1,422)	1,287	1,296	1,303	1,310	1,317	1,323	1,331	1,338
	小計	55,000	56,203 (56,381)	57,506	60,209	60,031	60,309	60,490	60,633	61,041	61,659	
	特定財源	国庫・都支出金	19,530	20,814 (21,397)	21,706	19,533	17,751	18,146	18,726	19,524	20,367	21,303
		繰入金	4,033	6,181 (6,324)	7,849	5,723	5,792	3,223	2,528	2,698	3,028	2,528
		特別区債	800	1,000 (1,200)	1,000	800	800	800	800	800	800	800
		その他	6,243	6,110 (6,078)	6,229	6,422	6,562	6,701	6,814	6,954	7,093	7,232
小計		30,606	34,105 (34,999)	36,784	32,478	30,905	28,870	28,868	29,976	31,288	31,863	
歳入合計 (A)		88,606	90,308 (91,380)	94,290	92,687	90,936	89,179	89,358	90,609	92,329	93,522	
歳出	義務的	人件費	19,987	19,945 (20,119)	19,841	20,154	19,862	20,008	20,154	20,216	20,195	19,716
		扶助費	19,402	20,596 (20,295)	21,860	23,200	24,543	25,963	27,464	29,051	30,728	32,587
		公債費	2,007	1,097 (1,096)	738	645	458	381	301	418	688	127
	投資的経費 ※	16,042	20,310 (22,696)	21,085	16,238	12,035	8,831	6,886	6,886	6,886	6,886	
	他会計繰出金	7,512	7,734 (6,506)	7,964	8,202	8,458	8,722	8,994	9,275	9,565	9,850	
	その他	24,584	25,336 (25,985)	26,277	26,788	27,806	28,822	29,839	30,838	31,806	32,823	
歳出合計 (B)		89,534	95,018 (96,647)	97,765	95,227	93,162	92,727	93,638	96,684	99,868	101,989	
単年度収支不足額 (A-B)		△ 928	△ 4,710 (△ 5,267)	△ 3,475	△ 2,540	△ 2,226	△ 3,548	△ 4,280	△ 6,075	△ 7,539	△ 8,467	

*括弧内の数字は実績値です。

■ 総基金と特別区債（年度末残高）の推計と実績

対象：財政調整基金、特定目的基金（減債基金及び介護給付費準備基金（特別会計）を含む。）及び特別区債の年度末残高とします。

期間：29年度から38年度までの10年間とします。

(単位：百万円)

区分	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
総基金	総基金	67,365 (67,286)	59,890 (67,904)	53,336 (56,644)	46,574	43,073	39,857	37,944	36,101	32,257	26,459	20,957
	財政調整基金	27,124 (27,046)	23,508 (24,969)	21,365 (19,720)	20,577	20,802	21,340	21,430	20,818	18,477	14,792	10,304
	特定目的基金	40,241 (40,241)	36,382 (42,935)	31,971 (36,924)	25,997	22,271	18,517	16,514	15,283	13,780	11,667	10,653

*括弧内の数字は28年度は実績値、29・30年度は実績見込です。

区分	年度	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
特別区債（年度末残高）		6,696 (6,696)	5,577 (5,145)	5,541 (5,306)	5,849	6,043	6,420	6,872	7,402	7,815	7,955	8,656

*括弧内の数字は28年度は実績値、29・30年度は実績見込です。

8 健全化判断比率 ～引き続き適正比率に～

区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
比率	—	—	△ 4.2 (△ 4.2)	—
(算出比率)	(△ 5.48)	(△ 8.57)	—	(△ 167.6)
平成27年度	—	—	△ 3.7 (△ 3.7)	—
増(△)減	(△ 0.16)	(△ 0.46)	△ 0.4 (△ 0.4)	(2.1)
特別区平均	—	—	△ 2.8	—
都内市町村平均	—	—	0.9	—
早期健全化基準	11.25	16.25	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

・健全化判断比率（4つの指標）は、財政の健全性や透明性を判断するための材料の一つであり、19年度から作成し、公表しています。

・28年度における本区の健全化判断比率は、健全な状態にあります。